【和田支部　住民説明会　地区２】

宿毛市市街地における河川・海岸堤防の地震津波対策説明会　議事メモ

日　時：平成27年8月25日（火）19：00～20：00

場　所：二ノ宮集会所

出席者：地区住民　45名

○県宿毛事務所より説明（別添資料）

【資料１】宿毛市市街地における河川・海岸堤防の地震津波対策（L2津波シミュレーション含む）

【資料２】松田川堤防の地震・津波対策

【資料３】海岸堤防の地震・津波対策

○質疑応答

Ｑ1：堤防の嵩上げを行うということですが、堤防そのものも沈下するのですか？

県 ：沈下します。沈下後、満潮位にも海水が流入してこないように天端高を嵩上げします。

Ｑ2：シミュレーションの中で二ノ宮地区は浸水色が赤いままで残っていましたが、あれはどういうことですか？津波が引かないということですか？

県 ：場所としては水田となっています。2時間のシミュレーションのため、津波が引くまでの動画ではありません。松田川本川が引き、順番に引いてきます。

Ｑ3：液状化対策について、全体を把握するためには莫大な予算がかかります。どの程度まで把握しているのですか？

県 ：堤防のボーリング調査を200ｍピッチで実施しています。その解析の結果で判断しています。延長が長いので密には実施していません。

Ｑ4：津波により被害が発生します。その後、排水をするということですが、排水をする必要性は？

県 ：復旧・復興のためには、排水し、ドライにしないと早急な対応ができません。

Ｑ5：排水能力はどう考えているのですか？

県 ：検討会を実施し、国土交通省の中村河川国道事務所と大洲国道事務所が保有するポンプ車9台を配備するよう計画されています。全て配備されれば発災後2週間程度で排水完了となっています。事前に対策していれば、これが短縮されます。

Ｑ6：地震発生後、津波避難タワー等高台へ避難しますが、2週間避難タワーの上にいるわけにはいきません。避難タワーからの二次避難を考えておかないともたないです。

県 ：そのため、被害を最小に抑え発災後の復旧を迅速に行えるよう、耐震・浸水対策を事前に行います。

Ｑ7：堤防の丈夫さはどう判断しているのですか？

県 ：ボーリングにより、地層を調査し判断しています。火山灰層が地震時に液状化します。解析の結果、松田川河口で5～6ｍと厚くなっています。

Ｑ8：市街地より少ないということですか？

県 ：河口から上流の和田地区にいくほど、火山灰層は薄くなっています。

Ｑ9：堤防を嵩上げすると、景観上良くないがどのように考えているのですか。

県：本来ならＬ1津波まで対応するべきですが、津波高が非常に高く、住民の日常生活や生業の大きな支障となるため、高さについては広く住民の皆様の意見を聴く必要があります。

特に、海とのかかわりの深い住民の意見にも配慮する必要があるため、最低限の嵩上げ(満潮位+50cm)が望ましいと考えています。このため、現状よりは、海が見えにくくなったり、景観が悪くなることもあります。

Ｑ10：今より丈夫になるのですか？

県：そうなります。

Ｑ11：文殊橋下流200m、合流部の堤防が低いです。復旧等対策を考えてもらいたいです。

県：現場を確認します。

Ｑ12：水位計の上流（竹やぶ）も土手が古いです。対策をしてもらいたいです。

県：現地を確認します。

Ｑ13：大橋に出水後ゴミがかかり何日も放置されています。その辺も配慮お願いしたいです。

県：台風後等には、見廻りを行い、対応するようにしています。

Ｑ14：シミュレーションについて、具体な場所を示して説明してもらいたいです。

県：拡大して、二ノ宮集会所付近の浸水状況確認。

☆地元の方より、地盤高・浸水高を集会所等に表示しているので、各自確認しておいてください。